

ナラティブ・メディア研究会 第26回研究会

C・F・ラミュの文学言語

笠間 直穂子

(翻訳家・國學院大学文学部外国語文化学科准教授)

スイス・ロマンド（スイスのフランス語圏）の作家、C・F・ラミュ（1878-1947）は、スイス・ロマンドの風土に根ざしつつも「地方主義」におちいらず、ローカルであるとともに普遍的であるような、話し言葉に基づいたフランス語文学の創造をめざし、その独自の文体は生前から議論の的となってきました。晩年の短篇をテキストとして、ラミュの独自性と、その試みの現代性を見ていきましょう。

2019年9月13日(金) 16:00～18:00

東北大学 文学研究科棟〔F棟〕3階中会議室

どなたでも興味のある方の来聴を歓迎します（事前申し込み不要）

ナラティブ・メディア研究会

照会先 文学研究科・森本浩一

情報科学研究科・森田直子

naoko.morita.c4@tohoku.ac.jp（森田）